

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 総合科学部門

職階 教授

氏名 紙透伸治

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

化学及び有機化学は、両学科の生化学、生理学、薬理学、食品科学など様々な専門科目の基礎となる科目である。また、卒業研究では化学を基礎とする手法を数多く用いる。従って両学科の初年次に化学の基礎を身に付けさせることが責務と考えている。

卒業研究では、研究を通じて問題解決能力、コミュニケーション能力、表現力、論理的思考を養い、社会に貢献できる人材を輩出することが責務と考えている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
化学	獣医学科	必	1	132
化学	動物応用科学科	必	1	147
化学入門	動物応用科学科	選	1	2
有機化学	獣医学科	選	1	119
有機化学	動物応用科学科	必	1	147
化学実験	獣医学科、獣医保健看護学科	選	1	60
化学実験	動物応用科学科	必	1	137
化学演習	動物応用科学科	選	1	122

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

育成したい学生像は以下の2つである。

(1) 大学で学んだ知識を実際に社会で生かすことができる。

化学は様々な学問と結びついており、実際の社会でも活用できる科目である。高校時代から学習している化学が実際どのように応用することができるかという点を最も伝えたいと考えている。これにより、大学で学ぶ基礎的な知識から専門的な知識までを実社会で生かせる人材を輩出したいと考えている。

(2) 周囲と協力しながら目標を達成できる。

卒業研究や実習科目を通じてコミュニケーション能力の向上を特に重視している。卒業研究では、他研究室の教員との交流や、研究室内の学生同士のコミュニケーションを介して、論文発表や学会発表を達成することを目標としている。このようなプロセスを経験することで、実社会で周囲を巻き込みながら目標を達成できる人材を輩出したいと考えている。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

獣医学部には化学が苦手な学生が多く存在するが、担当する化学・有機化学の講義では苦手意識を軽減できるようにわかりやすさを重視している。また、化学が将来受講する専門科目や研究、更には実社会でどのように関わりがあるかも含めて教えるよう心掛けている。例えば、コロナウイルスの感染症拡大が問題となったが、感染症の発症やその治療方法には分子レベルでは化学反応が深く関わっている。このような関わりをわかりやすく説明するようにはしており、化学を初年次に学ぶ意義を伝えている。

実習としては化学実験を担当しているが、上記のことに加えて、教員と学生が互いに議論できる場や、学生同士のグループディスカッションの場を作るように心がけている。また、卒業研究では、卒研生とも積極的コミュニケーションを図っており、週に1回はミーティングを行っている。学生の意見には耳を傾けアイデアは積極的に活用するようにしている。教員とのディスカッションを通じて、コミュニケーション能力と論理的思考を育むことを心掛けている。

卒研生および大学院生は、学会や有志の研究交流会などに参加する機会をつくり、出来るだけ自分の研究についてプレゼンテーションする機会を作るようにしている。プレゼンテーションをする際の心構えや、スライドの作り方や話し方は細かく指導するようにしている。プレゼンテーションをすることで表現力や自らをアピールする力を養っている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

化学実験の講義では、実験班ごとに予習課題や実験結果について教員とディスカッションする機会を設けている。

(2) ICTの教育活用

有

化学実験は全てPCを活用して実施している。予習課題はAzaMoodleを活用し、実験結果はPCで記録するという方式にしている。実験結果は Word や Excel でレポートとしてまとめ、PDF ファイルで提出する形式としている。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

授業評価アンケートの要望を考慮し、毎回の小テストについて一問一問解説を丁寧に行っている。

(2) 学生の理解度の把握

B

毎回小テストを実施することで理解度の把握を行っている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

化学と生命科学とのつながりを意識して講義をしており、化学を初年度に学ぶ意義を伝えるよう心掛けている。

(4) 学生とのコミュニケーション

B

質問の対応は丁寧に行っているが、疑問点をしぼりきれていない学生が多いようで、質問そのものが少ないと感じている。

(5) 双方向授業への工夫

B

化学実験においてディスカッションの時間を設けるなどの取り組みを行っているが、講義科目についてはまだ行えていない。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

該当なし

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

化学や有機化学の講義では毎回小テストを実施しているが、小テストの解説が不十分とのコメントがあったため、今年度は時間をかけて1問1問説明するようにした。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

現時点では特に成果は認められていない。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

小テストの解説については継続して行い、授業評価アンケートの結果や試験結果を考慮して再度別の改善点も考える。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

演習問題を講義内で行い成績向上を目指しているが、さらに今後は演習問題を増やす。また、解説もより丁寧に説明するように心掛ける。

(2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

演習問題を通じて理解が深まったというコメントはあるが、授業評価アンケートの結果や試験結果を考慮して解説方法や講義全体について再度改善点を考える。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

FD 研究会には全て参加しており、これまでFD 研修で学んだことを積極的に取り入れている。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

理念の（１）の実現には、担当する講義や研究の意義をわかりやすく伝える能力、面白さを伝える能力を自らが示す必要がある。このため、講義で学生から高い評価をうけることが重要と考えており、毎年の授業評価を少しでも上げることを短期的目標とする。これによって長期的には担当科目が魅力的かどうかという問いについて100%肯定的な評価となることを目指す。（２）の実現では、短期的には個々の学生が論文発表や学会発表をすることを目標とし、長期的には研究室の学生全員が複数回学会発表するような研究室を目指す。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

- ・ 授業科目シラバス
- ・ 授業評価アンケート